



発行日：令和8年3月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第57回海部会WGを開催しました！

第57回海部会WGでは、伊勢湾・三河湾の現状に関する情報共有、今後の活動や地域の課題等を情報交換することを目的に実施予定のフィールドワークについて意見交換を行いました。

日時：令和8年2月3日（火） 14：45～16：45

場所：西尾市役所

参加人数：19名 ＊事務局を含む



1. 主な会議内容

1. 今期の活動目標



第16期、最初のWGであることから、活動目標を確認しました。海部会が取り扱う4つの活動テーマである「①豊かな海の再生に向けた取り組み」、「②海と人との絆再生」、「③ごみの問題」、「④土砂の問題」について、情報共有、意見交換および情報発信を念頭において、他部会や外部団体との連携を図っていきます。

2. フィールドワークについて



実施予定のフィールドワークは、地域の課題等を情報交換することを目的に行うため、行先や内容の意見交換を行いました。主な意見として、愛知県水産試験場や鳥羽市にある三重大学の水産実験所の見学、漁業協同組合の協力のもと魚を見学、三河湾沿岸でのテント宿泊などの案が出ました。

5,6月頃に開催予定の第58回海部会WGと併せて、現地集合、現地解散にて実施する方針といたしました。実施に向け、海部会座長 青木先生をはじめ懇談会員の皆様と行先や内容の調整を図っていきます。

3. 海部会で作成した動画について



三河湾の現状を多くの流域市民の方に知っていただくために作成した、海苔・アサリの生産者の方へのインタビューや座長 青木氏、副座長 鈴木氏の解説をまとめた動画を現在YouTubeにて公開しています。

今後は、より包括的な情報を発信するため追加のインタビューや、より多くの方に見ていただくため市役所の待合所などでの放映に向けた調整を図っていきます。



動画URL

4. 情報提供・意見交換



伊勢湾・三河湾の漁業の近況（令和8年2月時点）を愛知県水産試験場 谷川氏より情報提供して頂きました。

- ・ アサリは、昨年前半から不漁で休業している漁業者も多い現状である。愛知県のアサリは豊川河口で獲れた稚貝を移植放流しているが、直近で獲れたアサリの稚貝も20トン程度ととても少ない。実際にどの程度のアサリが生息しているのかわかると分らないが、現在の様子からは不漁が予想される。
- ・ 海苔は、例年12月から市が行われており、1月後半までは色が黒く良かった。1月末ごろから少し色づきの悪い海苔が出てきた印象である。直近では知多半島沿岸や西三河の栄養塩が大幅に減少していることを確認したため、色づきが悪くなるのが予想される。知多半島の方では、いつもより悪いわけではないが、状態の悪い網から生産をやめているようだ。
- ・ シラスウナギは、例年12月から4月にかけて太平洋から上がってくるものを獲っており、昨年は豊漁であったが、今年はやや少ないと聞く。

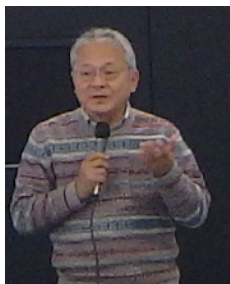
◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

● 伊勢湾・三河湾の現状について

- 底層の貧酸素水塊の解決には、植物プランクトンの光合成によって海中の酸素が生成されるため、光が底層まで届くように海の透明度を保つことが重要である。アサリは懸濁物食者として、透明度を向上させる役割を果たし、また、湧水は透明度が高く、アサリに必要な栄養塩を供給している。このように、植物プランクトンやアサリの活動と湧水の供給の連携による循環が、底層の貧酸素水塊の改善にとって重要である。栄養塩不足の対策として下水道の管理運転をするだけでは、短期的な効果しか得られないため、この底層の貧酸素水塊も同時に考える必要がある。(井上)
- ▶ かつては伊勢湾・三河湾では、大規模河川の河口に広大な干潟・浅場があり、そこに生息する二枚貝などの生物の水質浄化機能により植物プランクトンが取り込まれ泥の中に排出されることでバクテリアが無機化し、海苔の栄養素となる循環機能があった。1970年から1980年にかけての港湾整備のための干潟・浅場の埋立により、この循環機能が失われ、底層の貧酸素水塊が生じたため、干潟・浅場の回復に向けた取り組みが実施されている。しかし、2014年ごろから、栄養塩不足により水質浄化機能を担っている二枚貝などの生物が減少し、底層の貧酸素水塊を悪化させる悪循環が生まれている。そのため、まずは下水道の管理運転による栄養塩類の濃度を上げる取組を進めている状況である。(鈴木(輝))
- ▶ 透明度が高すぎるのは植物プランクトンが少ないことを表しているため、植物プランクトンの量と透明度のバランスが重要である。(谷川)
- ▶ 現在の環境から、過去の環境に戻すには時間を要するものだと感じる。(高橋)
- 普段の業務の中でブルーカーボンの推進として藻場の再生に関する業務などを行っており現場に行く機会があるが、数年前までは藻場が広がっていた場所が少ししか残っていなかったり、残っている場所でもアマモの結実が例年より一ヶ月遅れていたりなど、数年で急激に変化していることを感じている。(金子)
- ▶ アマモは栄養を葉と根から半分ずつ吸収している。泥に栄養を供給する二枚貝などの生物が少ないことが、アマモが繁茂しない原因となっている。また、水温の低い湧水が供給されず、アマモの繁茂に適した温度でないことも原因である。(鈴木(輝))
- 例年、佐久島の海岸に小さい貝やアオサが多く見られたが、昨年はほとんど見られなかった。(石川)
- 三河湾の栄養塩不足を発信するために海部会で作成した海苔・アサリの生産者の方へのインタビューや座長 青木氏、副座長 鈴木氏の動画をさらに広める方法があると良いと思う。(近藤)
- ▶ YouTubeのURLのQRコードをチラシとして小学校に配布することが考えられる。(戸田)
- ▶ 今後は市役所などに設置されているデジタルサイネージでも放映できればと考えている。(事務局)
- ▶ 西尾市役所に設置されているデジタルサイネージで放映できるか確認する。(齊藤)

● フィールドワークについて

- 地域の課題等を情報交換することを目的に開催するフィールドワークについて、行先や内容の意見を伺いたい。(青木)
- ▶ 愛知県水産試験場や鳥羽市にある三重大学の水産実験所を見学するのも一つの案である。現地集合、現地解散にするのが現実的であるとする。(近藤)
- ▶ 西三河漁業協同組合の協力のもと漁船に乗り底引き網を見学するイベントがあるため、漁業協同組合にご協力をいただいて、漁を見学するのも一つの案である。(石川)
- ▶ 浜名湖や天竜川及びその支流などを見学するのも一つの案である。(近藤)
- ▶ 三河湾沿岸にて市民も参加できるような形でテント宿泊するのはどうか。(太田)
- 今回の意見交換の内容を踏まえて、2026年の5、6月ごろに次回WGと併せて開催する方針で、懇談会員と事務局で調整をしていく。(青木)



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

